

平成 28 年度第 1 回総合教育会議会議録

開会及び閉会の年月日時

開 会	平成 29 年 2 月 1 日午後 1 時 30 分
閉 会	平成 29 年 2 月 1 日午後 2 時 15 分

会議に出席した者の職及び氏名

出席者	市 長 : 阪 口 伸 六 教 育 委 員 長 : 佐 野 慶 子 教 育 委 員 : 西 中 隆 教 育 委 員 : 西 村 陽 子 教 育 委 員 : 吉 村 文 一 教 育 長 : 藤 原 一 広
教育委員会 事務局職員	教 育 部 長 : 木 寄 茂 巳 教 育 部 理 事 : 細 越 浩 嗣 教育部次長兼社会教育課長 : 上 田 庸 雄 教育部次長兼こども家庭課長 : 池 治 久 美 子 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 学 校 教 育 課 長 : 吉 田 種 司 子 育 て 支 援 課 長 : 神 志 那 隆 教育総務課長代理兼総務管理係長 : 山 本 敬 司
市長部局職員	政 策 推 進 部 長 : 山 本 富 之 政 策 推 進 部 次 長 : 石 坂 秀 樹 総 合 政 策 課 長 : 浅 岡 浩

議題及び議事の要旨

・協議事項 (1) 平成 29 年度教育委員会重点課題について

教育総務課長	平成29年度教育委員会における重点課題について説明する。 平成29年度の重点課題として6項目あり、学校教育として学力向上に向けた取り組みの充実、小・中学校における英語教育の推進、幼・小・中学校園における連携の推進、支援教育の充実である。 次に、社会教育において、生涯学習・生涯スポーツの推進、郷土史及び文化財に対する理解を深める取り組みである。以上が平成29年度教育委員会重点課題となっている。
阪口市長	順次説明をお願いしたい。
教育総務課長	1点目の学力向上に向けた取り組みの充実についてであるが、現在、教育委員会として、府費負担による加配教員に加え、市費による非常勤講師を児童・生徒にとってわかりやすい授業、わかったという達成感が得られる授業を実施し、児童・生徒の学習意欲、自己肯定感を高めることを目的として配置をしている。 今年度が授業改善の手段として、タブレット端末の活用にもチームを作り研究と実践に努めている。中学校においては、高石っ子まなび舎事業として、放課後学習に取り組んでいる。また、学力向上大作戦として、各校においても計画的に学力向上の取り組みを進める予定である。
阪口市長	今後、どのようにしていくのか意見があればお願いしたい。
教育部理事	学力向上については、今回は芳しくない結果が出たが、各学校について学びんぐティーチャーという形で、市独自の非常勤も入れながら取り組んでおり、今の取り組みを継続したい。ただ、学校任せにはなかなか難

	<p>しいので、教育委員会として、学校に取り組みの成果等を聞きながら、その中で改善を指導し、丁寧に学校との連携を進めながら取り組んでいきたいと考えている。</p>
西中委員	<p>秋田モデルとか福井モデルとは違い、高石を含む都市型モデルでの学力の向上というのは余り先進的な取り組みがない。個々の学校や、自治体単位では取り組みを行っているが、それが都道府県レベルになるとなかなかまとまらない。高石市としても平均点に一喜一憂をするのではなく、地道に取り組んでいくことが大事だと考える。</p> <p>だから、私は今の取り組みで特にこの辺が欠けているということは無く、非常に努力していると思うが、特に家庭にどう浸透していくか、何か課題として考えているのか。</p>
教育部理事	<p>狭い地域ではあるが、学校区の状況が非常に違うところもあり、その中で家庭との連携で、幼・小・中の連携の推進を今年で一区切りとし、来年からの連携をステップアップするための中に、地域と家庭との連携というのを中学校区で進める取り組みを一つの課題として上げており、中学校区の周辺の地域の方の意見も含めながら、家庭との対策を進めていきたい。</p> <p>学校と家庭との連携については、宿題等密にやり、それをまた学校へ持ってきたときに個別に指導するという事は小学校でよく担任を中心に取り組んでおり、そこを進めていきたい。</p> <p>また、中学校については、放課後学習で学習につまずきのある生徒を中心に、学生や地域の方等を中心に取り組んでおり、これを継続しながら補充学習等進めていきたいと考えている。</p>
佐野委員長	<p>タブレット活用にもチームをつくって研究と実践に努めているとあるが、具体的な対応を教えてください。</p>
教育部理事	<p>タブレットについては、この28年度にタブレットアクティビティースタディチームというタブレット活用研究チームを作り、タブレット会社のサポートも加えながら、教員がタブレットを使つての授業を進めていく授業研究を1年間外部の学校を視察もしながら取り組んだ。その中で指導主事が中心となり、各学校から本当に学びたいという教員を募り、チームを作り、その教員がまた学校へ戻り広めていくという取り組みを進めているが、授業にもっと有効に使うことがないか、来年度どうしたらいいかということは今、研究をしている途中である。</p> <p>学習指導要領の改定の中でいわゆるアクティブ・ラーニングという学習方法が始まる前には、学校の中で可能な限り浸透できるような形で取り組みを進めていきたいと考えている。</p>
佐野委員長	<p>アクティブ・ラーニングについては、児童・生徒の実勢を尊重し伸ばしていく大切な指導方法だと思うので、この辺の研究も続けて充実してほしい。</p>
吉村委員	<p>以前、近畿地区の学校医の研修会に参加したとき、経済格差と体格の問題が演題にあがり、貧困と肥満は反比例しており、貧しいほど太る。家へ帰ったら冷蔵庫のものや、置いてあるジャンクフードを勝手に食べる等、親がいないという家庭で、それが学習できない一つの要因になっている。それを補うのがあおぞら教室であり、放課後学習が大きな部分を担っていると考える。よって、それらを重点的に経済格差を是正していかないと、なかなか学習格差も縮まらないと考える。</p> <p>最近、子育て支援課と社会福祉課が、移動で距離ができ、少し気になっており、連帯を密にしていきたい。</p> <p>やはり、できるだけ帰ったら親のいる家庭をどうにか支援し作ったら、学力も上がってくるのではないかなと思う。ただ単に学習のソフト面だけではなく、家庭環境という面にも目を向けないといけないと考える。</p>
教育部長	<p>平成28年度から機構改革を行い、子育て支援課、こども家庭課も教育部の所管に編入になった。これはゼロ歳児から義務教育までということで、家庭児童相談員、あおぞら児童会の所管も全部入っている今までこども家</p>

	<p>庭課は保健福祉部の管轄であったが、部が一緒になり一体的になったということで、その辺の連携を今後も、幅広い年齢層が対象になるので綿密な連携をとって施策を推進していきたいと考えている。</p>
阪口市長	<p>本人が問題を見つけ、解決していこうという問題意識を持って頑張っていけるような、ヒントを与えるような教育をぜひお願いしたい。</p> <p>また、先生は子供たちに自分の将来に向けた人生のヒントを、与えてられる仕事なので、一喜一憂せず頑張ってください。</p> <p>続けて、英語教育について説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>本市は、平成25年度より全小学校において、通常5・6年で行う外国語教育の授業を小学校1年から実施し、発達の段階に応じて英語になれ親しむ活動を展開している。</p> <p>また、小・中学校において、コミュニケーション能力の育成を図るためALTを配置し、ネイティブな英語になれ親しむ活動の充実に努め、小学校に中学校英語教諭免許保持者を非常勤講師として配置している。本市の学校教育の特徴として、英語教育に積極的に取り組んでいる。</p>
教育部理事	<p>英語の教育特例校をし、小学校1年から取り組んだ結果が今年度かなり、あらわれてきた。中学校1年生で小学校6年までの成果を検証するため英語判定能力テストを行っているが、3中学の中1が受験し、3中学全てで英検5級程度の、小学校6年生までの取り組みで5級以上の能力があるという結果が50%を超えた。昨年よりもポイントでいうと10ポイントぐらい上がっており、ようやく小学校1年から取り組んできた成果が非常に出てきていると考える。</p> <p>また、継続して3級程度の中3での結果も3中学合わせて30%は超えており、今後も3級は50%を目標に頑張っていきたいと考えている。</p>
西中委員	<p>中学校の教員がそれぞれ専門を持っており、小学校の教員もそれぞれ大学での専攻もあると思う。専門と英語というような形で、英語を第二母国語ぐらいの気持ちで、今後、高石の先生方にやっていただきたい。</p>
阪口市長	<p>成績すばらしく、それをまた今度ステップアップにつなげていきたいと考えており、応援いただきたい。</p> <p>次、幼・小・中学校連携について。</p>
教育総務課長	<p>子供たちが確かな学力を身につけ、豊かな心や体を育み、たくましく生きていくためには、義務教育の9年間を通して継続的に一貫性のある指導を行うことが重要である。そのため、小学校、中学校の連携を密にすることが必要と考えており、平成26年度より3年間、小・中連携推進事業に取り組んできた。各中学校区で連携教育を進め、いわゆる中1ギャップの解消の取り組みも含め、小・中学校間の緊密な連携体制の確立を目指し、学力の面、そして心の醸成の面、体力の面、それぞれの視点から各中学校区で取り組みを推進してきた。各中学校区で共通の育てたい児童・生徒像を設定し、その子ども像実現のために研究テーマを設定し、校区の幼・小・中の教職員が共通認識のもと、学校の独自性を発揮し、特色ある学校づくりを推進している。</p>
西村委員	<p>それぞれの校区の研究テーマがキャリア教育や言語活動を行っているということであるが、選挙権が18歳に引き下げられ、成年年齢も18歳に引き下げという話が出ており、20歳になって大人になるのではなく、これから18歳で大人扱いされるといふ世の中が来る。</p> <p>そういう意味で義務教育の間にしっかり主体的に世の中に出て対応していけるような判断力や、自分の意見を述べ、情報を集めて判断していく等、主体的に判断していくことへの能力は、早いうちから鍛えていかないと感じている。18歳で成年になると、様々な契約も取り消しができなくなる。そのような時代が来ていることを踏まえながら、キャリア教育についても力を入れていく必要があると感じている。</p>
西中委員	<p>要望であるが、高石の小・中の連携というのは本当に垣根がなく、常に話し合っていてやっているのは素晴らしく、いわゆる中1のギャップというの</p>

	<p>が、この高石に限ってはないのではないかと思う。研究面でも可能な限り一緒に行い、育っていくという形をお願いしたい。</p>
教育総務課長	<p>次に支援教育の充実について。 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律が昨年4月1日に施行された。学校においては、障がいのある児童・生徒等の性別、年齢及び障がいの状態において、社会的障壁の除去の実施について、必要かつ合理的な配慮を検討しなければならない。支援教育の充実のため、各種支援人材の配置・派遣等を実施していきたいと考えている。</p>
吉村委員	<p>高石市はよく加配の教員で介助員やパート看護師、ボランティア等を多数、人材を集めており感謝している。最近の小児医療の中でも、昔は病院の中で一生を過ごすような子でも、医療器具の進歩でうちに帰れるようになった。うちに帰ったら、他の子供たちと一緒に学校へ通わせたいというニーズが増え、高石市はまだ少ないが、本当の身体障害児という部分でふえてくると考える。それらを見越し、現在と同様な補助体制をぜひ維持していただきたいと要望したい。 その上で、発達障害の面でも個別教室でよく対応し、学校見学のときのような、1人の教員が1人ないし2人を見て十分教え、落ちついた環境でできるというのは非常にいいことだと考える。ぜひ、このままの状態を維持していただきたいと要望したい。</p>
教育総務課長	<p>次に生涯学習・生涯スポーツの推進である。 まず、生涯学習として、市民文化会館についてであるが、昨年12月17日にアプラたかいし3階にウェルカムステーション「ハグッド」がオープンして1カ月がたち、多くの子育て世代の方にご利用いただいている。平成29年度から33年度までの5年間、市民文化会館をアプラ共同事業体による指定管理を行っていく。 次に、生涯スポーツについて、高師浜運動施設については、施設の修繕や改修、人工芝の整備など適切に維持管理を行っていたが、照明設備については長期間の使用により受電設備等の老朽化が進んでいるため、国の石油貯蔵施設立地対策等交付金を活用し、地域スポーツの振興と防災の観点から整備を行っていききたいと考えている。</p>
阪口市長	<p>要望ではないが、還暦式などを行っている市町村もあるとのことなので、余分な費用をかけてというのではなく、例えば呼びかけ等の支援があってもいいのではと考える。</p>
西中委員	<p>老人会等では行っていないのか。</p>
阪口市長	<p>今、老人の定義は65歳からであるので微妙である。</p>
教育総務課長	<p>次に郷土史及び文化財に対する理解を深める取り組みについてである。 昨年10月30日から1週間、アプラ3階ギャラリーで市制50周年事業として郷土史展を開催した。開催期間中に多くの市民の方々の来場があり、来場者は770名である。アンケート結果でも、「高石市の歴史がよくわかった」や「市民の方に昔のことをもっと知ってほしい。内容が大変よかったので常設にすれば」という肯定的な意見をいただいた。</p>
西中委員	<p>常設はどこかでやっているのか。</p>
社会教育課長	<p>図書館郷土資料室にて古代からの石器や土器の展示をしているところに市の郷土史展を行ったパネルを合わせ、小規模ではあるが展示を行っている。 今後、図書館郷土資料室の展示に合わせて、その時代に応じたパネルを活用しながら、できる限り市民に見て頂けるよう郷土資料室等で展示を行っていききたいと考えている。</p>
西中委員	<p>余り小出しでやるよりは、ある程度の規模で展示するほうがいいと考える。</p>
教育部長	<p>期間限定ではあったが、大規模な郷土史展についてはアンケート等でも評判がよく、さらに再発見できた等の声もたくさんいただいた。今後、年</p>

	間を通じて継続的にやっていきたいと考えているが、委員の指摘の点も踏まえ、どういう形で市民の方に再度、郷土史の大事さ、大切さを訴えていけるかもあわせて研究をしていきたいと考えている。
西中委員	しっかりした資料があるので小出しにするのではなく、規模が小さくてもいいので、常設で展示等を検討していただきたい。
阪口市長	郷土史の学習は学校でも行っているのか。
教育部理事	行っている。
阪口市長	古代から現代まで行っているのか。
教育部理事	行っている。副読本として「私たちのまち高石」というのを作っており、その中にも歴史的な内容もある。機会があるときは、展示物を学校に持って行って見せる等も行っている。
阪口市長	そのようなものの活用の仕方を考えて、また、様々な形でどんどんPRするようにしていただきたい。
吉村委員	一緒に展示していた古地図とか市街の絵について、芦田川と王子川の間にもたくさんの細い川があり、集落は大園遺跡等、少し高台にある。それも防災の教育として非常にわかりやすい。 防災の日で古地図を利用する等、歴史以外にも利用価値はあると思うので、常設して欲しいと考える。
阪口市長	これで閉会とする。